

世界の農業と野菜～インド編～

～野菜ソムリエはるちゃんのベジフル通信～ 増刊号 2011 2月

数年前、インド人の友人が来日した時に、夕食の約束をしました。

「待ち合わせは何時にする？」と訪ねると、彼女が答えました。

「end of the day」

聞いた私がバカでした。インドの夜は深夜0時からが本番、若者は町にくり出して朝方までにぎやかな時を過ごしているのです。平均年齢が**26歳**という若者の多い国、何ともエネルギー感なんです。

インドは？

人口約12億、世界第2位。酪農、綿花は世界一、砂糖の消費も世界一です。食料自給率は**100%**を超え、輸入品はほとんどありません。多人種、多宗教、国内でも言語が通じないほど、バラエティに富んでいます。

最近の健康障害は？

糖尿病の増加
砂糖の消費が世界一の彼らは、甘いものが大好きです。チャイにも砂糖がたっぷりです。おかげで糖尿病の方が増えているそうです。

女性の膝の問題

インドの台所は座って調理をする形ですが、最近普及したシステムキッチンにより、立って料理をする女性が増え、膝を痛める人が増加しているそうです。

Sommeliere de Legume HARU

農業

なす、きゅうり、柑橘類、マンゴーの原産地
労働人口の50%が農業従事者（日本は5%）
実は米の輸出国（バスマキ米）
紅茶の大産地（ダージリン、ニルギリ、アッサム）
灌漑率45%、水の確保が重要課題
地下水を電気できみ上げるので電気代がかかる。
電気の供給が不安定でよく停電する。
機械が発達せず、牛を使って仕事をする。男女平等。
女性はサリーを着て農作業をする。
流通は、商人がトラックで各畑に買い付けにいき、畑で値段交渉や売買をする。

ベジタリアンの秘密

宗教と食の関係

ヒンズー教徒は、肉がNG（国民80%がヒンズー教徒）
イスラム教徒は、豚肉、酒がNG（牛肉はOK）
ジャイナ教徒は、肉以外に、じゃがいも、たまねぎ、しょうが、大根、いもなど、土の中のものもNG
「カースト制度」の上層階級の人たちがベジタリアン。彼らが賢く宗教を守っている人々。逆に、下層階級の人たちはノンベジが多い。

両親がベジタリアンなので、子供もベジタリアン

特に地方の農村では肉が高くて食べられない。
Ex) じゃがいも 1kg 20円 とり肉 1kg 400円

高級野菜と憧れのフルーツ

レタスが超高級品。葉は1枚ずつはがされ、1枚単位で売られている。憧れのフルーツはいちご。冷凍物しか手に入らない。